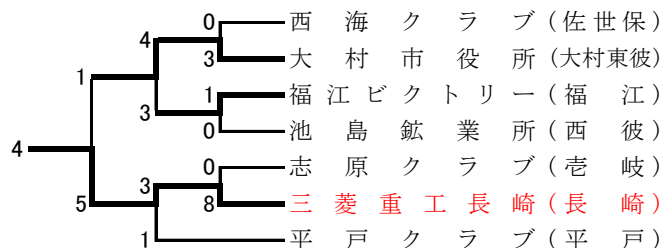
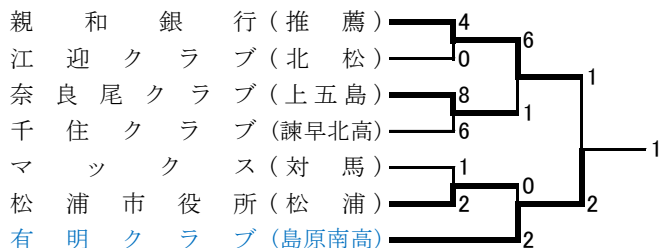


有明町クラブ、初の決勝戦進出も三菱重工に決勝3ラン

第27回長崎県軟式野球選手権大会

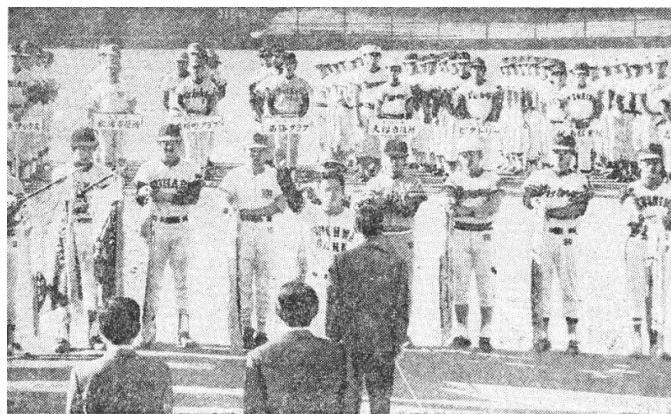
会期 昭和52年10月21日(金)～23日(日)
会場 A:大橋球場 B:三菱球場



第27回県軟式野球選手権大会は21日開幕し、大橋球場で開会式が行なわれた。出場チームは各地区の予選を勝ち抜いた強豪14チームで、このうち8チームが昨年に続いて連続出場。この日は雲一つない秋晴れの絶好日。県警音楽隊のマーチ演奏の中を堂々の選手入場。ダイヤモンドに全チームが整列した後、国旗、大会旗の掲揚。次に昨年優勝の親和銀行と準優勝の三菱重工から優勝旗、準優勝旗がそれぞれ返還された。

田代精一・長崎新聞社事業本部長は「郷土の代表として熱のこもったプレーをして欲しい」とあいさつ。その後、先月11日から14日まで栃木県で行なわれた、高松宮賜杯第21回全日本軟式野球大会で優勝した上対馬漁協の代表二人に、松浦継義県軟式野球連盟会長から表彰状が手渡された。選手宣誓は親和銀行の香田博主将(26)。「正々堂々と戦う」と健闘を誓った。

開会式のあと大橋球場で4試合、三菱球場で2試合の一回戦計6試合が行なわれた。第1試合の親和銀行と江迎クラブの対戦は敵失と長短打をムラなく生かした親和銀行が江迎を下し昨年の優勝チームの貫禄を示した。第2試合の奈良尾クラブと千住クラブ。第3試合のマックスと松浦市役所はいずれも七回まで同点で大会規約に基づいて一死満塁制で決着。



奈良尾と松浦がそれぞれ打ち勝った。第4試合は大村市役所の西正人投手が西海クラブをノーヒットノーランに抑えて完勝。三菱球場での第1試合は福江ビクトリーが2回に拾いものの1点を挙げ久保と平山のリレーで池島鉱業所を完封した。第2試合は三菱重工が志原クラブを全く寄せ付けず圧勝した。
(昭和52年10月22日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

親銀の貫禄勝ち 継投で江迎をかわす

【江迎】打安点

⑥川本	1	1	0
④山辺圭	2	0	0
⑧栗原	3	0	0
⑨3小田原	3	0	0
⑦山崎	3	0	0
③太田	1	0	0
4松田	2	0	0
②山辺等	2	0	0
H前田	1	0	0
①川口	2	0	0
⑤門田	0	0	0
H古川	1	0	0
5原田	1	0	0
22 1 0			

【一回戦】=第1試合(大橋)= 振球犠盗失残 1時間28分

江迎クラブ	000 000 0	0	3	2	1	0	2	4
親和銀行	100 102 X	4	0	3	0	1	1	3

【三】岩佐

【評】親和銀行は四回までに挙げた2点に加えて六回、敵失を足掛かりに長打などを絡めたダメ押しの2点を奪って勝った。

六回親和は小栗が敵失で出塁。一死後に岩佐が中堅を大きく破る

三塁打。二盗していた小栗が生還しまず1点。続く香田が歩いたあと松尾の当たりは二塁ゴロとなったが、この間に岩佐が本塁を陥れて加点し勝負を決めた。

江迎クラブは好機に一発が出ず親和銀行の宮崎-宮本の好リレーに抑えられ涙をのんだ。



4回裏、親和は無死二三塁から香田の犠飛で竹山かえり2点目 =大橋球場=

【親和】打安点

⑨古川	3	0	0
⑧坂井	2	0	0
8小栗	1	0	0
⑤竹山	3	1	1
⑦岩佐	3	3	1
③香田	0	0	1
②一ノ間	2	0	0
2松尾	1	0	1
④小森	1	0	0
H大道	1	0	0
⑥石田	0	0	0
①宮崎	1	0	0
H岩永	1	0	0
1宮本	0	0	0
⑥4富永	1	1	0
20 5 4			

千住、反撃むなし 奈良尾 延長で突き放す

【奈良尾】打安点

⑥ 福見	4	2	1
⑧ 森	4	0	0
⑤7 金丸	3	1	1
⑦5 津田祐	4	0	2
③ 浜山	4	1	1
① 平田	4	0	0
⑨ 本村	4	2	0
② 宮崎	3	0	0
④ 金崎	1	0	0
4 津田孝	3	2	0
34 8 5			

【一回戦】=第2試合(大橋)= 振球犠盗失残 1時間52分

奈良尾クラブ	200 300 03	8	4	2	0	3	3	10
千住クラブ	101 003 01	6	10	2	0	0	4	5

(延長8回一死満塁制)

【評】互角の試合展開となり六回、千住が3点を挙げて5-5の同点とし延長戦へ持ち込んだ。延長戦は大会規定により一死満塁制の状態で行われ奈良尾が3点取ったのに対し千住は1点で反撃も及ばなかった。奈良尾は初回、敵失に乗じ金丸と浜山の長短打で2点を先取り五回にも3点を追加。リードされた3点を追う千住は六回、連続敵失に吉岡、馬場の連続安打で同点に追いついた。その甲斐なく一死満塁制で敗れたのは残念。

【千住】打安点

⑧ 千住	4	1	0
⑤ 池田	4	2	0
④ 中村	4	2	0
⑨ 田中	3	1	1
⑦ 横田	3	0	1
⑥ 藤山	3	1	0
③ 井上	2	0	0
② 吉岡	3	1	2
① 馬場	3	1	1
29 9 5			

松浦、粘り勝ち -明暗…延長の打ち合い- マックス1点差に泣く

【マックス】打安点

⑥ 島居	3	1	0
④ 勝井	3	0	0
① 中庭	2	0	0
③ 三山	2	0	0
⑤ 八坂	3	0	0
⑧ 山城	2	1	0
⑨ 平塚	3	0	0
② 永留	2	0	0
⑦ 鈴木	2	0	0
H7 毛越	1	0	0
23 2 0			

【一回戦】=第3試合(大橋)= 振球犠盗失残 1時間17分

マックス	000 000 01	1	6	3	2	1	0	7
松浦市役所	000 000 02x	2	5	3	0	0	1	3

(延長8回一死満塁制)

【評】双方ともなかなかバットが出ず0-0のまま一死満塁制でケリがついた。最終回までマックスは安打2本、松浦は無安打。結局、延長の“打ち合い”では松浦が辛勝しマックスには悔いの残る試合となった。マックスは初回に先頭の島居が敵失、勝井は野選で一二塁。ここで中庭が送って一死二三塁としたが後が続かなかった。四回と七回にも得点機が訪れたが本塁を踏めなかった。松浦は四死球で出塁しただけの無安打だったが延長の粘りが利いた。

【松浦】打安点

① 伊藤	3	0	0
⑥ 山口	2	0	0
③ 山崎	3	0	0
② 谷口	3	0	0
⑧ 大久保	3	0	0
⑨ 松本	3	0	0
⑦ 梶元	1	0	0
R7 園田	0	0	0
⑤ 橋口	1	0	0
④ 高尾	2	0	0
21 0 0			

鮮やか右翼打ち 大村 西がノーヒット・ノーラン

【大村】打安点

⑦2 前川	2	0	0
③ 池田	3	0	0
⑤ 橋本	3	1	0
⑧ 徳久	4	1	0
⑥ 雄城	4	1	0
④ 新高	4	3	1
② 津田	1	0	0
9 西孝	2	1	1
⑨7 高治	3	1	1
① 西正	3	0	0
29 8 3			

【一回戦】=第4試合(大橋)= 振球犠盗失残 1時間30分

大村市役所	010 010 1	3	3	2	1	0	2	4
西海クラブ	000 000 0	0	0	3	0	1	1	3

新高

【評】大村は鮮やかな右翼打ちで全得点をたたき出し、守っては西正人投手が西海打線をノーヒット・ノーランに抑え完勝した。二回大村は新高の右前打と高治の右翼二塁打で先制。五回には遊ゴロ失で出塁した雄城を新高、西孝之の連安打で本塁へ迎え入れた。更に七回には徳久の右中間二塁打。二死後に新高も右中間に二塁打してダメ押し。大村の西投手は速球とカーブのコンビネーションがうまく、時折緩急を織り交ぜ打ち気にはやる西海打線を無安打に抑えた。西海は敵失と四球でわずか3人しか出塁できなかった。

【西海】打安点

⑥ 石井	2	0	0
⑧1 土居	3	0	0
③ 小柳	3	0	0
② 谷山	3	0	0
⑤ 香田	3	0	0
④ 姉川	3	0	0
⑨ 福田	2	0	0
①8 山下	2	0	0
⑦ 安武	2	0	0
23 0 0			

福江、継投で完封 池島 好機に決定打欠く

【福江】打安点

⑧ 川口	3	0	0
④ 田上	3	0	0
⑤ 坪内	3	1	0
⑥ 中村	3	2	0
② 山内	2	0	0
⑨ 中里	3	1	0
⑦ 木場	1	0	0
7 本岡	1	0	0
③1 平山	2	1	1
① 久保	2	0	0
3 林	0	0	0
23 5 1			

【一回戦】=第1試合(三菱)= 振球犠盗失残 1時間25分

福江ビクトリー	010 000 0	1	3	1	2	0	0	4
池島鋳業所	000 000 0	0	7	1	1	0	0	3

【三】中村 【二】中村、中田

【評】福江は二回、山内四球の後、中里の遊ゴロが野選となり無死一二塁。木場の送りバントで二三塁として平山が、三塁後方に深いフライを打ち上げた。池島の三塁手・下山は転倒しながら本塁へ送球したが送球が三塁走者の山内の肩に触れボールはバックネットへ転々。平山の三犠飛で福江は貴重な1点を拾った。池島は一、三、五回に四球や安打などで走者を送ったが福江の久保と平山の両投手のカーブに手こずり決定打を奪えなかった。

【池島】打安点

② 中田	3	1	0
⑦ 面崎	3	0	0
⑥ 出口	2	0	0
① 尾上	3	1	0
③ 大始良	3	0	0
⑧ 野中	2	0	0
H 松崎	1	0	0
⑨ 佐藤	3	1	0
④ 林田	1	0	0
H4 高見	0	0	0
⑤ 下山	2	0	0
23 3 0			

2 ホームーで圧勝

三菱 志原ク寄せ付けず
重工

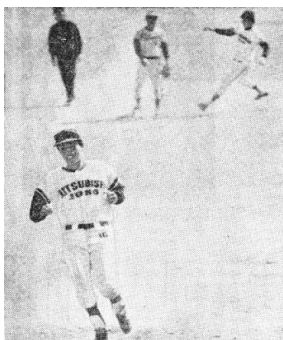
【一回戦】=第2試合(三菱)= 振球犠盗失残

三菱重工長崎	032 012	8	2	7	0	8	0	7
志原クラブ	000 000	0	1	0	0	0	2	0

(6回コールド)【本】浜口、川上 1時間20分

【三菱】打安点

⑥ 浜口	3	1	3
H6 吉田	0	0	0
④ 桜木	3	1	0
⑨ 井上	2	0	0
H9 豊田	1	0	0
② 増永	3	0	0
⑦ 川上	3	2	2
⑤ 奥園	2	0	0
H5 橋本	2	0	0
① 大村	3	1	2
③ 岩崎	3	0	0
⑧ 上内	1	0	0
		26	5 7



6回表、三菱一死満塁で代打豊田の投前ゴロを投手がエラー。上内が生還し7点目を挙げる。

【評】三菱は二回、奥園の振り逃げと上内が四球の二死二三塁に浜口がカーブをとらえ右中間に先制3ラン。三回にも二死二三塁から大村が左前安打し2点追加。五回は川上が左中間本塁打し六回は死四球と相手エラーなどで計8点を奪い志原クを寄せ付けず六回コールド勝ちをした。

志原クは三菱の大村投手に完全に抑えられ最後まで三者凡退。なんとか走者を出そうとセーフティバントなど試みたが三菱の固い内野陣に阻まれた。大村投手は参考記録ながら六回完全試合。

【志原】打安点

⑤ 浦上	2	0	0
⑦ 福原将	2	0	0
④2 松永	2	0	0
②8 久田	2	0	0
⑧4 江口	2	0	0
① 山口	2	0	0
⑥ 小川	2	0	0
⑨ 福原正	2	0	0
9 浦川	0	0	0
③ 山内仁	2	0	0
3 山内清	0	0	0
		18	0 0

大会二日目の22日は大橋球場で二回戦4試合を行った。連日好天が続く中、各チームは砂煙を巻き上げての熱戦を展開。第一試合の親和銀行-奈良尾クラブは親和が初回無死満塁から安打を連ね一挙5点を先制し、追いつがる奈良尾の追撃を1点にとどめて圧勝。第二試合の松浦市役所-有明クラブは有明が初回2四球と盗塁と敵失で1点。さらにこの後のタイムリーで2点を先行。守っては小兵・金子投手が松浦打線を

散発3安打に抑えて快勝。第三試合は福江ビクトリーが二回に2点先行したが大村市役所も四、五回に1点ずつ追加し同点。今大会三度目の一死満塁制の延長戦。延長八回表に大村が2点を挙げてリード。その裏の福江も必死に反撃したが1点どまり。第四試合の平戸クラブ-三菱重工は平戸が三回に1点先行したが三菱はその裏同点に追いつき、四回には今大会3本目本塁打。五回にも1点追加し平戸クを振り切った。

【二回戦】=第1試合= 振球犠盗失残 1時間15分

奈良尾クラブ	000 100 0	1	1	0	1	0	2	2
親和銀行	500 100 X	6	2	1	0	0	1	4

【三】一ノ間、宮崎昭
【二】福見、津田祐

【奈良尾】打安点

⑥ 福見	3	1	0
⑧ 森	2	0	0
③17 金丸	3	0	0
⑦1 津田祐	3	1	1
⑤ 山脇明	3	0	0
⑨3 浜山	2	0	0
H 平戸	1	0	0
①9 平田	1	0	0
9 本村	1	0	0
② 宮崎昭	2	0	0
④ 津田孝	1	0	0
4 金崎	1	0	0
		23	2 1

【親和】打安点

⑧ 古川	2	0	0
83 坂井	2	1	0
⑤ 竹山	3	1	0
③ 香田	1	0	0
8 小栗	1	0	0
⑦ 岩佐	3	1	2
⑨ 一ノ間	3	1	2
② 松尾敏	3	2	1
④ 小森	1	0	0
61 宮崎	2	2	0
① 宮本	2	0	0
H4 大道	1	0	0
⑥46 富永	3	2	1
		27	10 6

初回、親銀が猛打

【評】一回の攻防が明暗を分けた。奈良尾は初回、先頭の福見が左翼手頭上を越す二塁打。森の送りバントで一死三塁としながら強攻策に出て金丸、津田祐が凡退したのは惜まれる。その裏の親銀は敵失、安打、四球の無死満塁に、岩佐が投手足元を抜く中前打し更に一ノ間の右翼線三塁打、松尾の一塁強襲安打と続き一挙に5点を先行、試合を決めた。

奈良尾は四回一死後に金丸が遊ゴロ失で出塁。捕逸二進後津田祐が左中間を深々と破る二塁打して1点を挙げた。親銀の宮本投手によく食い付いていたが、打球が野手の正面を突き追加点を奪えなかった。

金子(有明)3安打完封 松浦、立ち上がり乱れる

【二回戦】=第2試合= 振球犠盗失残 1時間20分

松浦市役所	000 000 0	0	5	0	0	3	1	4
有明町クラブ	200 000 X	2	4	5	0	3	2	7

【三】吉田宏
【二】吉田正



【評】初回、足を使った速攻で2点を挙げた有明が守っても松浦を散発3安打に抑え完封した。有明は初回、先頭の吉田浩、続く金子が連続四球。気をよくして果敢に盗塁した後の一死後、吉田朝の内野ゴロが敵失となる間に吉田浩が生還。金子が挟殺後に吉田正のあたりはポテン気味の左前安打。吉田朝が悠々生還した。

松浦は、間をおかない有明・金子投手の好投に抑え込まれて、得点に結びつけることができなかった。

憤死 1回裏、有明クラブは三ゴロ失で二塁走者の金子が本塁を突くが、三本間にはさまれ三塁タッチアウト。

個人テーブルは
次ページに掲載

【松浦】打安点

①伊藤	3 0 0
⑥橋口	3 0 0
③山崎	3 0 0
②谷口	3 1 0
⑧大久保	3 0 0
⑦7松本	3 0 0
⑦榊元	1 0 0
9加藤	2 0 0
⑤谷川	2 1 0
④高尾	2 1 0
<hr/>	
	25 3 0

【有明】打安点

⑦2吉田浩	1 0 0
①金子	2 0 0
⑤3竹之内	3 0 0
⑦7吉田朝	1 0 1
⑧吉田正	3 1 1
⑥松本	3 0 0
③高見	2 0 0
H長野	1 0 0
9加藤	0 0 0
④酒井	1 1 0
H45吉田公	2 1 0
②中島	2 1 0
H4谷川	1 0 0
<hr/>	
	22 4 2

福江ビクトリー 延長8回、力尽く

大村が逆転勝ち

【二回戦】=第3試合= 振球犠盗失残

大村市役所	000 110 02	4	7	5	3	0	0	6
福江ビクトリー	020 000 01	3	1	1	0	2	2	4
		(延長8回一死満塁制)		1時間54分				

【評】先制したのは福江だったが大村がジリジリ追い上げ2-2の同点で今大会三度目の延長戦となり一死満塁制で大村が逃げ勝った。大村は2点リードされた四回、四球の橋本を徳久が手堅く送った。雄城の凡打は敵失を招き橋本が生還。五回にも同じく無難に攻め二死後二走の高治が池田の適時打で還り試合を振り出しに戻した。大会規定による一死満塁制は投手の動揺を誘うのか、大村は延長八回押し出しで挙げた2点を守り逃げ勝った。



4回の大村は雄城の遊ゴロ失で橋本が生還、1点を返す

【大村】打安点

②前川	3 0 0
③池田	3 1 1
⑤橋本	1 0 0
⑧徳久	1 0 0
⑥雄城	3 0 1
④新高	3 0 0
⑨西孝	2 0 0
H9山崎	1 0 0
⑦高治	2 1 0
①西正	2 1 0
<hr/>	
	21 3 2

【福江】打安点

⑧川口	3 1 0
④橋本	2 0 0
H塩塚	1 0 0
④田上	0 0 0
⑤坪内	3 0 0
⑥中村	3 1 0
②9中里	2 1 0
⑨木場	2 0 0
2山内	1 0 0
③1林	3 2 0
①3平山	3 0 0
⑦本岡	3 1 2
<hr/>	
	26 6 2

三菱、平戸破る 橋本が勝ち越し本塁打

【平戸】打安点

④吉浦	3 0 0
②江田	3 0 0
⑥正木	3 0 0
⑤新地	3 1 0
③早田	3 0 0
⑦石田	3 0 0
⑧高本	3 1 0
⑨宮田	2 0 0
①井手口	2 1 0
<hr/>	
	25 3 0

【二回戦】=第4試合= 振球犠盗失残 1時間11分

平戸クラブ	001 000 0	1	2	0	0	0	0	3
三菱重工長崎	001 110 X	3	3	3	0	1	0	4

【本】橋本 【二】豊田、上内
【評】大会第3号のソロホームーを含めて三菱は三回から五回までに各1点を挙げ、守っても平戸打線を3安打1点に抑えた。三菱が地力を発揮した一戦。三回平戸が内野安打、野選などを絡めて1点先制すると、その裏の三菱は豊田の四球を足掛かりに一死後、上内が中越え二塁打で豊田をかえして同点。四回には一死後、橋本の強振した初球が大きな弧を描いて左翼席へ。力強いソロホームーだった。五回にも長短2安打をつないで打ち勝った。

【三菱】打安点

⑥浜口	2 0 0
④桜木	3 0 0
②増永	3 0 0
⑤橋本	2 1 1
⑦川上	3 1 0
⑨井上	2 0 0
H岩崎	1 1 0
9大村	0 0 0
①豊田	2 1 0
③吉田	2 0 0
3奥園	0 0 0
⑧上内	2 2 2
<hr/>	
	22 6 3

三菱重工に凱歌—第27回県軟式野球選手権大会は最終日の23日長崎市営大橋球場で準決勝、決勝戦が行なわれた。この結果一回戦から順調に勝ち進んだ三菱重工が二年ぶり8度目の優勝を飾った。また有明町クラブがよく健闘し初の準優勝に輝いた。快晴に恵まれた球場で行なわれた準決勝の第1試合は有明町クラブと昨年度優勝の親和銀行との対戦。双方とも攻撃が荒くなかなか得点機をモノにすることができなかったが、試合の主導権を握った有明が最終回二死一塁から適時打で1点挙げ辛勝した。第2試合の大村市役所と三菱

重工は粘り強い攻撃で得点を重ねた三菱が、大村打線を1点に抑えて勝ち進んだ。有明と三菱の決勝戦は五回に有明が本塁打で1-1の同点に追いついたのも束の間、三菱も六回に川上の3点本塁打で突き放した。試合終了後、閉会式が行われ三菱重工チームに優勝旗有明町クラブに準優勝旗を田代精一・長崎新聞社事業本部長が授与、県下アマチュア軟式野球の雄となった両チームの栄誉を祝福。三日間の熱戦の幕を閉じた。

(昭和52年10月24日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

親銀1点に泣く

【準決勝】=第1試合=

振球犠盗失残 1時間18分

有明町クラブ	100 000 2	2	1	0	1	0	2	6
親和銀行	000 100 0	1	1	1	0	1	2	7

【三】吉田浩、坂井

【親和】打安点

- ⑨ 古川 4 0 0
- ⑧3 坂井 4 2 0
- ⑤ 竹山 3 0 0
- ⑦ 岩佐 3 1 1
- ③ 香田 2 1 0
- 8 小栗 1 0 0
- ② 松尾敏 3 0 0
- ⑥ 宮崎 3 0 0
- ① 宮本 2 0 0
- H 一ノ間 1 1 0
- ④ 富永 2 0 0

28 7 2

28 5 1

- 【有明】打安点
- ⑦ 吉田浩 4 3 1
 - ① 金子 3 0 0
 - ⑤ 竹之内 3 1 1
 - ⑧ 吉田朝 3 0 0
 - ⑨ 吉田正 3 1 0
 - ⑥ 松本 3 0 0
 - ③ 高見 3 1 0
 - R4 酒井 0 0 0
 - ④3 長野 3 1 0
 - ② 中島 3 0 0

【評】全般に押し気味に試合を運んだ有明が1-1の同点で迎えた土壇場の七回に長短3安打を絡めて適時打で1点挙げ辛勝した。この回の有明は高見、長野がそれぞれ左右に打ち分け無死一二塁。中島の併殺打で二死一塁となり逸機したかと思われた。しかし続く吉田浩は右中間を大きく破る三塁打で長野をかえし、決勝進出の1点を挙げた。

初回、有明に1点の先制を許した親和は四回反撃に出た。坂井が右翼フェンスに直接当たる三塁打。一死後に岩佐が二塁手左をうまく抜いて坂井生還。続く香田も左前打したが後が続かず1点どまり。

両チームとも得点機はまだあったが攻撃に荒さが目立った。特に六回、有明は敵失などで得た無死満塁の絶好機をつぶし、親和も一死二三塁の後次打者が凡打で三塁走者は本塁で憤死した。

大村市役所先制むなし

三菱長崎好リレー

【準決勝】=第2試合=

振球犠盗失残 1時間15分

大村市役所	100 000 0	1	6	0	1	1	1	3
三菱重工長崎	012 200 X	5	2	3	1	3	3	5

【二】奥園

【三 菱】打安点

- ⑥ 浜口 3 1 0
- ④ 桜木 2 1 1
- ② 増永 3 1 1
- ⑦1 川上 2 0 0
- ⑨8 井上 3 2 0
- ⑤3 奥園 3 1 2
- ①9 大村 3 0 0
- ③ 岩崎 0 0 0
- H5 橋本 2 0 0
- ⑧7 上内 3 0 1

24 3 1

24 6 5

- 【大村】打安点
- ② 前川 3 0 0
 - ⑦ 高治 2 1 0
 - ⑤ 橋本 3 1 0
 - ⑧6 徳久 3 0 1
 - ⑥1 雄城 3 0 0
 - ④ 新高 2 0 0
 - H 葉山 1 0 0
 - ⑨8 西孝 2 1 0
 - H 津田 1 0 0
 - ③ 池田 2 0 0
 - ① 西正 2 0 0
 - 9 永尾 0 0 0

【評】二回から四回まで着々と加点した三菱が、守っても投手の大村を中心に守備を固め、大村打線を1点に押さえて振り切った。

大村に1点先行された三菱は二回に内野安打、敵失などで1点を拾い、これを皮切りに積極的に攻撃に出た。三回二死から川上が四球後に二盗。井上の内野安打で一三塁として井上も二盗。奥園の中前二塁打で二者生還。さらに三菱は四回にも二死後に粘り強い攻めを見せ、浜口が歩き二盗後、桜木、増永が右方向へ連安打して2点を追加した。

大村は初回、三菱内野守備の3失策につけ込んで1点先したが以降は三菱の大村-川上の好リレーに抑えられた。

三菱重工長崎優勝

川上が決勝3ラン

2年ぶり8度目 有明町クラブあと一歩

【決勝戦】 振球犠盗失残 1時間25分

有明町クラブ	000 010 000	1	6	1	0	0	1	2
三菱重工長崎	100 003 00X	4	3	1	1	2	0	4

【本】吉田朝、川上

【二】吉田朝

【評】試合半ばの五回表と六回裏に大きなアーチを描いた二つの本塁打が決勝戦にふさわしい醍醐味だった。同時に六回裏の3点本塁打が三菱重工長崎に優勝をもたらした。三菱は初回に先頭の浜口が死球。桜木が内野安打すると一気に重盗し無死二三塁。増永の右犠飛で浜口が還り1点を先取。その後、四回までは両チームとも守備が堅く早いテンポで無得点のまま回を重ねた。

この沈黙を破ったのが五回。有明・吉田朝が右翼席に叩き込んで1-1の同点に持ち込んだ。しかし三菱は六回裏、有明の内野守備の乱れを突き敵失と野選で一死一二塁。ここで川上は有明・金子の速い3球目を左翼席へ3点本塁打。自らは大会2本目の本塁打で有明を4-1と一挙に突き放した。小柄な体ながらポンポンと小気味よく放り好投が光った金子も、三菱打線に力負けした。



やったぞ 6回裏三菱重工、一死一二塁から川上(右)が決勝の3点本塁打を放ちナインに迎えられる

- 【有明】打安点
- ⑦2 吉田浩 4 1 0
 - ① 金子 4 0 0
 - ⑤ 竹之内 4 0 0
 - ⑨7 吉田朝 3 2 1
 - ⑧ 吉田正 2 0 0
 - ③ 長野 3 0 0
 - ⑥ 松本 3 0 0
 - ④9 酒井 3 0 0
 - ② 中島 1 0 0
 - 4 谷川 2 0 0

28 3 1

【三 菱】打安点

- ⑥ 浜口 3 0 0
- ④ 桜木 4 2 0
- ② 増永 3 0 1
- ⑤ 橋本 4 0 0
- ⑦ 川上 4 1 3
- ⑨ 井上 3 0 0
- ① 豊田 3 1 0
- ③ 岩崎 2 0 0
- H3 奥園 1 0 0
- ⑧ 上内 3 1 0

30 5 4

天皇賜杯第32回全日本軟式野球大会【52チーム】

(8. 27～・長野県諏訪市ほか)

- 【二】 親和銀行 1-0 富士電機製造(株)東京工場
- 【三】 " 5-8 佐久総合病院(開催地)

常陸宮賜杯第13回全日本準硬式(6. 5～・滋賀県)

- 【一】 親和銀行 4-3 東京会場火災(東京)
- 【二】 " 2-1 山形相互銀行(山形)
- 【三】 " 1-4 丸善石油下津(和歌山)

※準硬式野球の衰退をもって第13回大会で終幕

第32回青森国体・長崎県予選大会(7. 16～島原市営、島原農高)

平戸クラブ	2	親和銀行	5
長崎無線電報局	5	福江ビクトリー	3
天満タクシー	4	長崎市役所	1
松浦市役所	3	有明町クラブ	4
パワーズクラブ	2	シーサイド	1
三菱重工長崎	5	バンビーズ	2
大島クラブ	2	波佐見クラブ	0

第29回県民体育大会(11. 5～長崎)

- 【準】 壱岐 3-1 佐世保
- 長崎 1-0 松浦
- 【決】 長崎 4-0 壱岐

三菱重工長崎と有明町クラブは、8月7日長崎市大橋球場で開催の西九州大会に出場したが、本国体は佐賀の目達原自衛隊が出場。

高松宮賜杯第21回全日本2部・県予選(7. 2～上五島)

上対馬漁協(対馬)	3
朝長時計店(長崎)	5
福江球友会(福江)	3
島原市役所(島原南高)	3
佐工クラブ(佐世保)	2
中村クラブ(大村東彼)	2
有川クラブ(上五島)	3
ブローズ(上五島)	6
平戸電話局(平戸)	2
黒崎クラブ(西彼)	3
佐々クラブ(県北)	3
千住クラブ(諫早北高)	3
松浦クラブ(松浦)	0

3年前の昭和49年に上五島軟式野球連盟が創設された。初代理事長・前田英敏(故人)の回顧談によると、上五島で初めての県大会であったが前々日の木曜日は暴風雨で開催も危ぶまれ延期も止む無しとの判断で本土の参加チームに連絡を入れる前に同じ離島の上対馬漁協チームに連絡を入れたが既に対馬を出発した後であった。

連絡の取りようがないままに大会前日を迎えたが天は上五島連盟に味方して雨は止み本土からのチームも上五島に集結して大会は始まった。上対馬漁協は初戦の朝長時計店を0-0で一死満塁制の延長8回に3点挙げ逃げ切り。地元の有川クラブ戦も3-2の接戦を勝利して決勝戦。上五島ブローズのエース犬塚虎夫は昭和45年国体の高校軟式で上五島高が優勝したときの立役者だったが序盤に打ち崩し着実に加点して9-0で対馬勢としての県大会初優勝して九州ブロック大会へとコマを進めた。

大橋球場での九州予選の初戦・佐賀には5回コールドの8-0。代決定戦の大分戦は3-3で同点の8回二死一塁で扇千摩男が三塁打し大黒柱の大浦康伸が投げ切って、長崎県勢として1部は48年の有明クラブ、2部では44年の中村クラブ以来8年ぶりの高松宮賜杯全日本大会出場となった。

初戦の札幌市水道局戦は大浦康伸の本塁打などで8点を奪い、大浦と菅野正昭と余裕のリレーで初戦を突破。同日の二回戦は岸田市役所。扇寿光の本塁打や菅野正昭の二塁打などを3人の投手に浴びせて8点を奪い、守っては大浦康が完投しベスト4に進出した。

準決勝は初回の4点が効いて大浦-菅野正-大浦の二人の投手がリレーして一蹴。とにかくこのチームは扇寿光と武末俊紀の1、2番の俊足コンビがよく塁に出て扇千摩男、菅野正昭、大浦康伸のクリーンアップも火を噴いてここまで早い回に得点を挙げる先制攻撃に成功して決勝戦に進出。決勝戦の相手は準決勝の福岡戦を23-5で大勝した河合楽器。監督の辻は「いやな相手だな」と思ったが

上対馬漁協	003 021 101	8
札幌市水道局	000 001 000	1
上対馬漁協	300 400 010	8
岸和田市役所	200 020 000	4
上対馬漁協	400 000 102	7
モンスターズ	120 000 001	4
上対馬漁協	001 001 010	3
河合楽器	000 000 001	1

「打撃は水モノ、で大浦康が連投の疲れも見せず伸びのあるストレートとキレのよいカーブで抑え最終回に失点しただけで優勝した。「無欲がアレヨ、アレヨという間に優勝した。全国大会では楽なゲームばかりだったが、0-0で一死満塁制で勝った県予選一回戦の朝長時計店戦や九州代表決定戦での大分戦の方が苦しかった」と、辻監督がいうのももったいな勝ちっぷり。

優勝旗と高松宮杯を地元を持ち帰った上対馬漁協チームは町内パレードや祝賀会が開かれ沸きあがった。

◇△交界灘を越える白球(対馬野球史)より引用◇

高松宮賜杯全日本2部・九州予選(7. 30～長崎/大橋)

トップクラブ(福岡)	2
中越バルブ(鹿児島)	1
人吉球友会(熊本)	9
中部商高教職(沖縄)	5
上対馬漁協(長崎)	8
有田白嶺(佐賀)	0
国東クラブ(大分)	7
日南スラッガー(宮崎)	6

高松宮賜杯第21回全日本2部【16チーム】

(9. 11～・栃木県宇都宮市)

- 【一】 8-1 札幌市水道局(北海道)
- 【二】 8-4 岸和田市役所(大阪)
- 【準】 7-4 ニューモンスターズ(鳥取)
- 【決】 3-1 河合楽器ファイターズ(静岡)



高松宮賜杯2部で全国優勝をした、上対馬漁協ナイン

監督	辻 三則	投手	飛田 真宏	内野	扇 千摩男	内野	小島 俊実	外野	武末 芳次
主将	武末 俊紀	捕手	大浦 正行	"	扇 秀雄	"	菅野 修	"	菅野 正昭
投手	財部 清志	"	扇 康一	"	広田 博実	外野	梅野 時吉	"	比田勝政人
"	大浦 康伸	"	犬束 俊治	"	扇 寿光	"	園田日出男	"	比田勝安之